

昭和25年3月1日

109—55

ペクトル依り Lipochrom 色素即ち Carotinoid 色素+ α 物質と考えられる。

(4) 本物質の化学構造は1分子中に多数の共軛に重結合($>C=C<$)を一定の配列状態下に有し遊離の基を持たない多價炭化水素ならん。

161. 産婦人科領域に於ける血清アルギニンの研究

松本清一, 森和雄(昭和醫大)

正常婦人, 妊婦, 少女, 更年期後婦人等の血清を鹽酸水解し, 坂口反應によりアルギニンを比色定量し, 且之の血清蛋白量(硫酸銅法による)に對する比を求めた結果, 1) 正常婦人39例中續發無月經者及び月經未潮者では異常の高値を, 月經中の者では異常の低値を示すものがあり, 更に最近無月經となつたことがなく, 又月經中でない21例(A群)と現在無月經又は無月經が恢復したばかりの者13例(B群)とを比較すると, B群の平均値は著しく有意に高い。2) 前項A群に月經正順者を追加した26例での平均値を假に正常婦人値とし, 妊婦95例, 褥婦14例での平均値と比較すると妊婦では絶對量, 蛋白量に對する比共に著しく高く, 褥婦では絶對量は著差ないが蛋白量に對する比は稍と高い。3) 月經未潮少女6例の平均値は絶對量, 蛋白量に對する比共に高い。4) 閉經婦人16例でも同様に高い。5) 妊婦, 月經未潮者, 閉經婦人, 續發無月經者等の血清アルギニン値の高いことは, 尿中ヒスチデンが妊婦, 思春期, 更年期, 卵巢機能不全者等で陽性となるとゆう濱田等の從來の報告と關聯して興味深く, 血清デアミノ酸と卵巢機能との關聯性が示唆される。

162. 妊婦血清遊離アルギニンに就いて

伊藤久(昭和醫大)

森, 松本は妊婦血清中のアルギニン量は正常者に比して著しく増加すると報告しているが, 妊婦血清中の遊離アルギニン量に就いて検討した。即ち妊婦100名の血清を860倍に稀釋し坂口反應に従い比色定量し, 對照として正常男子並に女子血清各20例を用いて比較した結果, 1) 健康男子血清遊離アルギニンは220 mg/dl~230 mg/dlで, 水解後は230 mg/dl~240 mg/dlである。2) 健康女

子では比較的少く200 mg/dl~210 mg/dlで, 水解後は210 mg/dl~230 mg/dlの値を示す。3) 妊婦の血清遊離アルギニンは健康男子よりも遙に多く時には250 mg/dlに達し, 水解後は300 mg/dl程度の事がある。4) 血清遊離アルギニン量は血清水解後のアルギニン値の90%程度に及び, 量的差は互に平行していることが判つた。

163. 産婦人科領域に於ける糸毬體濾過率の研究

小林隆, 高橋高(東大)

Rehbergが單位時間尿量に尿と血漿とのクレアチニン(以下クニと略記する)濃度比を乗すれば, 單位時間の糸毬體濾過量を知り得ると提唱し, 他方Van Slyke及び其の一派が一定物質の單位時間内尿中排泄量と等しい量を含む血液量を其の物質の淨化値と名付け, 其の測定を腎機能検査法として推奨した。クニが淨化値測定物質として, 最も優れていることは既に一般の認める所である。

我領域に於ける腎機能特に, 淨化値に關する研究は, Margaret Niceの正常妊娠及び産褥時に於ける尿素淨化値及びStander, Ashton等の妊娠中毒症に於ける尿素及びクニ淨化値測定を見るのみである。余等は, 妊, 産, 褥婦に就てクニ淨化値を測定し, 次の成績を得たので報告する。

- 1) 妊娠時のクニ淨化値は, 正常婦人に比し稍と増加する。
- 2) 娩出直前では, 再び減少し, 直後では, 直前に比し増加する。
- 3) 産褥時では, 著しく増加するが, 次第に正常値に近づく。

164. 産婦人科領域に於ける白血球喰菌機能に關する研究

渡邊英二(東大)

喰菌機能は物理化學的刺戟, 生體の變調等により種々な影響を受ける。余はトブラー氏變法により, 採取した全血に大腸菌を混じ, 一定時間37°Cに保ち, 塗抹標本鏡檢により白血球の喰菌率及び喰菌數を測定し次の結果を得た。

- 1) 月經周期との關係については, 月經期に喰